



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp

令和 7 年度を迎えて～先人の足跡から学び伝えること

会 長 前田 妙子

初夏の晴れ晴れとした青空がうれしい季節となりました。第 56 回総会を無事迎えられることを嬉しく思います。

平素よりお世話になっております皆様方に心より感謝申し上げます。

昨年度は、第四代会長の野田淳子様、第五代会長の松本倫子様、そして両会長を支えて長年父母の会活動をしてこられた元副会長の桑原逸子様が、ご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。野田会長時代は、福祉制度も情報も何もない時代で、まさしくパイオニアとして、行政や関係機関などと膝を突き合わせて話し合い、日々奈良県内を走りまわって活動されていました。野田さんの強いリーダーシップで、会員の皆さんの先頭に立って、チャリティー墨書展開催、福祉の店「わかくさ」開店（現在は、NPO 法人わかくさもえぎ）、心理リハビリテーションの訓練会等々、現在も継続している奈良県肢連の礎を築いてこられました。また、松本会長時代は、制度拡充期で、障害者自立支援法が施行された年に会長に就任されました。障害福祉制度は、措置制度から 2003 年に自立支援法へ、自立支援法の見直し、つなぎ法と、現在の障害者総合支援法までに幾度となく改正されてきました。度重なる制度の見直しに際して、会員が理解できるように制度の勉強会を幾度となく開催してくださいました。また、全肢連を通して、制度の見直しに声を届けてくださいました。当会 50 周年記念誌には、「父母の会は、人に対して優しさと思いやりを持ち、互いの障害のことや親の悩みに向き合える、なんでも気楽に話せる集まりであることを会の第一義においてきたこと、子どもが自立して生活できるようにしておくことが親の役目であり、それを支援できるよう福祉・医療の向上と整備に向かい活動するのが父母の会の役割。いつの世もテーマである『住み慣れた地域で安心して住める共生社会の実現』をめざして会員一同力を合わせて歩んでいきたい」と記されています。これこそ奈良県肢連の活動のレガシーであり、昨年、奈良県で開催した全国大会のテーマそのものです。今後もこのレガシーを受け継いで、会の活動を続けていかなければと気が引き締まる思いです。

野田会長の「ないないづくしのパイオニア時代」、松本会長の「障害福祉制度の整備拡充期」の足跡を振り返り、あらためて、現在の奈良県肢連の活動の礎を築き、障害福祉の制度がより良く推移してきたのは、先人たちの努力の上に成り立っているということに感謝したいと思います。そして、このような歴史と先人の親としての歩みを、障害のある子どもを持つ若い父母の皆さんに知っていただきたいと思います。そしてこれからも障害があることで生きづらさを感じるのではない社会になるように、会員の皆さんはもちろん、まだ会員になっていない若い父母の皆さんたちにも仲間になっていただいて、共に障害児者のために活動を続けていければと願っています。

この広報誌「道」57 号には、令和 6 年度の活動の報告や感想、恒例のコーナー「和気あいあい」「数珠つなぎ」など載せております。ご高覧いただければ幸いです。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



父母の会に寄せて



爽やかな季節に



独立行政法人 国立病院機構奈良医療センター
院長 永田 清

さわやかな初夏を迎え、柔らかな日差しが若葉に降り注ぐ頃となりました。私たちは、かなり長い期間コロナ感染症に翻弄され続けていましたが、ようやくその影響も少なくなり、マスクを外して街を歩けるようになってきました。コロナに気を取られている間に世の中はこれまでの常識では考えられないような変化をしつつあります。

まず、地球規模では、気候変動が著しく、温暖化が進行して災害につながるような異常気象が頻繁に起こっています。日本でも線状降水帯などという以前には聞いたことがなかった豪雨にみまわれるようになりました。医療界からは、大きな被害が出るたびにそれぞれの地域に向けて救援のための医療チームが出動しています。

世界の動きの中では、超大国が隣国に領土拡張を目的に攻め入って核兵器で脅したり、宗教の異なる近隣の国同士が相変わらず衝突して戦争に発展する事態が起こっています。合衆国では、保護主義を掲げる独裁的なあのキャラクターの再登場となりました。国内の政治では、金銭をめぐる不祥事から、第一党が大きく議席を減らして不安定な政局運営を余儀なくされています。温暖化による気候変動も、世界・国内情勢も人間の奥底にある利己主義が根底にあって、不具合や軋轢を生んでいるとも考えられます。それぞれの立場で、言い分はあるでしょうが、解決にはほど遠く、迷宮に入りこみそうな気配です。

また、日常生活でもお米の値段が1年で倍以上になり、物価が上がってしまいました。いつのまにか暮らしやすい平穏な世の中とは、言えなくなってきた今日この頃ですが、日常の生活はとどこおりなく進めていく必要があります。特に「医療」はいかなる場合でも、安定を求められています。しかし、実際のところコロナ後の患者数減少からこの病

院も採算がとりにくく、働き方改革もあって医療者の自己犠牲に頼りきることも難しいことから、安定を維持するには厳しい面は確かにあります。ただし、医療は利益を追求するよりは、患者の病状の改善や回復を第一に考えるのが使命です。医療者の仕事が、他人の幸せを図る方向にあるのは、我々にとっても幸せなことであり、先にのべた利己主義が見え隠れする昨今においてせめてもの救いであろうと思っています。原点に立ち返って、今後も私どもの医療を必要とする人のために貢献できるように、職員一同力を合わせて努力いたします。もしもの災害時において、当院の役割を果たせるようにいたします。すなわち障害のある方を大規模災害時に受け入れる準備を奈良市、保健所、他施設とともにしています。奈良県の医療がよりよい方向に向かうこと、それと世界の戦争が早く終結することを願っています。



養護学校 PTA より

奈良県立明日香養護学校 PTA
前会長 仲光 朋子

全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会が盛大に開催されましたこと、また無事に閉会し、次の開催地へバトンが引き継がれましたこと、心よりお祝い申し上げます。本大会に参加させていただき、改めて肢体不自由児者の皆様とそのご家族、支援者の皆様が一堂に会し、情報を共有し、課題に向き合う大切さを実感いたしました。本大会を通じて、支援の輪がさらに広がり、より良い環境づくりに向けた新たな一歩が踏み出されることを願っております。

令和6年度、明日香養護学校では全校をあげて行



事に取り組むことができた一年となりました。夏休みに行われました「からだ楽々学習会」(動作法を用いた身体の機能回復を親子で学習する)、また秋には「たちばな祭」を開催することができました。たちばな祭では4年ぶりにPTA活動の一環としてバザーを開催し、当日はたちばな祭の発表を觀に来られた保護者の皆さまが多数来場くださり、賑わっていました。会場作りから販売促進、片付けに至るまで、役員一同で力を合わせて取り組み、実り多いPTA活動を行なうことができました。

また行事を通して、子どもたちの笑顔や笑い声、サポートして下さる先生方の励まし、見守る保護者の皆さまの気持ちが一つになると、学校全体が明るく和やかな雰囲気になれる事を実感できました。

今後も学校とPTA、家庭で相互に連携し、子どもたちの学校生活を見守り、支えていきたいと思ひます。



川大会では能登の地震のリアルを学び全国の特別支援学校の方々と交流を持つことが出来ました。セレモニー服のリユース&手作りバザーは大変盛り上がり、目標とした防災用の足踏み吸引機と手動の吸引機、計7台を購入する事が出来ました。



今年は何より奈良で行われた全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会に参加する事ができ、大会当日までの大変な準備から当日の流れ、その後の報告書が完成するに至るまで、本当に凄い!の一言でした。この大会では父母の会の歴史と層の厚さを体感させて頂きました。

この2年間、奈良養護学校PTA副会長として理事会に出席させて頂き、とても良い学びの時間となりました。ありがとうございました。

今後とも、子供達が笑顔で、より良い学校生活が送れますよう、ご指導ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

奈良県立奈良養護学校PTA
前副会長 梶本 たけの

令和6年度のPTA活動はここ数年に渡るコロナでの自粛期間を思うとかなり和らぎ、思い切って動き出せる良い一年になったと思ひます。

PTA会員が出会い、無理なく楽しめる活動を意識しました。久しぶりにお茶とお菓子が登場した新入生歓迎会&親睦会、将来についてのお話会。お楽しみ行事としてドキュメンタリー映画『普通に生きる』の映画上映会は想いや悩みをシェア出来る良い時間となりました。

今年は新たな取り組みとして、あいサポート研修、あいサポーターメッセージ登録と、親が子供の未来の為に行動出来るきっかけとなりました。全肢P石



肢体不自由児(者)文化・芸術活動事業
学習会「障害者家族に関わる成年後見人制度と資産の継承」

日時:2025年7月2日(火)10:30~12:00

場所:奈良県社会福祉総合センター 大ホール

講師:松村尚美 弁護士(歩み法律事務所)

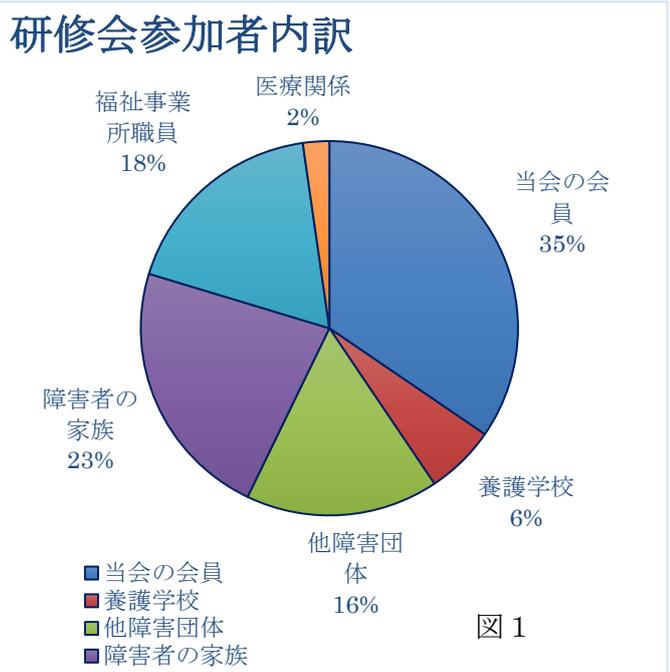
参加者:当会会員44名、他団体事業所等104名

副会長 宿利三知恵

障害児者の保護者の高齢化により、後見人制度や資産の継承に関するいろいろな疑問解消を望む声が多くなってきています。熊本県の肢体不自由児者父母

の会の会員であり、障害者の家族でもある弁護士の先生をお呼びして、肢体不自由児者や保護者の思いに特化したお話を聞き、成年後見人制度や民事信託の仕組みなどを学びました。講演の最後に、質疑応答の時間を長く取ることによって、具体的な疑問に対して、考え方や注意点について丁寧に教えて頂きました。

当会の会員だけに限らず、奈良県下の他の障害者団体、養護学校、事業所等にも参加を呼びかけたところ反響が大きく、多くの方にご参加いただきました。(図1)



参加者からの感想

- ◆ 今までもいろいろな講演を聞いて、知識もあり、成年後見人制度が改良されるのを待っている状況でした。今日のお話は本音で語ってくださり、子どもの為にどうすればいいのかよく分かりました。まずは遺言、それから信託を考えます。
- ◆ 以前から興味があったことでしたので参加しました。すごく分かりやすく、聞きやすく、内容がとても良かったです。早めにした方がいいことだと思いますが、しっかり考えて勉強してすすめたいと思います。本人に妹がいますが、あまり迷惑かけたくないと思っています、そこが一番ネックになっています。
- ◆ せっかく貯めた本人のお金が無駄にならないようにしたいと思います。
- ◆ とても有意義なお話でした。任意後見、民事信託について、事例を含めわかりやすく教えていただけました。難しい問題ですが、今日のお話をふまえて一つずつ

活動に移していこうと思います。ありがとうございました。

- ◆ 任意後見や信託について、よく分かりました。遺言書があれば、後は大丈夫なのだと思っていたので、早速、主人にも教えます。長男に託そうと思っていますが、長男を取り巻く環境の変化で考え方も変わる可能性があることに気付かされました。私も主人もいつ死ぬか分からないし、いつ認知能力が低下するか分からないので、早めに対策を取りたいと思います。
- ◆ ご家族が悩まれている時に、制度の中でいくつかの選択技があることを知りました。情報として、お伝えする機会があればと思います。また、ご本人のためにご本人のお金をしっかり使って、より生活が充実したものになるように、お伝えしていけたらと思います。よい機会をありがとうございました。(福祉事業所職員)
- ◆ よく分かり、とても参考になりました。一人っ子は家族信託を利用出来ないと言われた事があり、どうしたら良いのか悩みましたが、民間の信託があるというのと、利用するのに具体的な事例などを紹介して下さい、すごく良かったです。こんなにためになる講演会、本当にありがとうございました。

肢体不自由児(者)社会見学事業
日帰りバス旅行



日時:2025年10月26日(土)

場所:和歌山マリーナシティ

参加者:27名

(障害児者10名・会員12名・介護者5名)

磯城郡 天井 純

久しぶりの旅行と聞いてとても楽しみにしてました。そして行先を聴いて驚きました。もっと近場なのかなあと考えていたからです。和歌山マリーナシティは行ったことが無かったので嬉しかったです。リフト付きバスも乗り心地がよくて、リフトも高さがあったけれど怖くなく、大丈夫でした。

お昼ご飯も美味しくて、中でもお刺身が奈良で買うのと味が違ってとても美味しかったです。そして食事のあとのお買い物を楽しみました。いろいろな商品を見れて、家族にもマグロのお寿司を買って帰って「美味しい」と言ってくれました。僕は市場でサザエのツボ焼きを買って食べました。食感がカリカリしてて硬かったけど、とても美味しかったです。そして黒潮市場の入口にあった太鼓を甥っ子と一緒に叩いたのが面白かったです。遊園地の乗り物にも乗ってみたかったなあ。普段見れない物や行けない場所に連れてってもらえて嬉しかったし、楽しかったです。

今回のような楽しい企画を考えてくださりありがとうございました。次回はアドベンチャーワールドに行ってみたいなあ。



近畿ブロック地域指導者育成セミナー

日時:2025年11月23~24日

場所:アバローム紀の国(和歌山市)

講師:東京大学生産技術研究所・日本防災士会本部理事

田中 健一氏 他全肢連役員

内容:

- 1.災害時個別避難計画の作成と避難先の確保と訓練について
- 2.障害福祉サービスの介護給付の地域の実態について
- 3.補装具等の支給状況について

参加者:2名(会長・副会長)

会長 前田妙子

1:防災士の田中先生が、災害に備えるポイントとして挙げられたことの中で印象に残ったことは、「災害を知ること」…どのような状況下で、どこで、どのような災害が発生するのかを、イメージしてみる。「己を知ること」…自分や家族の状態、土地、住居、地域、職場の災害リスクを知ること。「対策を立てる」…個々人の災害状況に応じたタイムラインの策定や予防対策(防災訓練含む)を考える。今からできることは、家族や身近な人たちと話し合っておくこと、自助で準備出来ることはしておくこと。想定外の大規模災害もあるので、避難先(親戚、知人)までも考えておく。などでした。災害時個別避難計画の作成は、まだまだ進みませんが、まずは、セミナーで学んだことを参考にして、今からできることをしたいと思います。

2.3:事前アンケートの結果を、清水全肢連会長より説明があり、それを踏まえて、グループミーティングで意見交換しました。市町村が決定する日常生活用具給付事業や、地域生活支援事業の基準には未だに地域間格差があり、住んでいる地域によって、給付や負担額が違うことが無いようにしていただきたいという声が多くありました。



さわやかレクリエーション助成事業
「奈良県肢連の今後について考える」
親睦食事会

日時：2025年11月29日(金)
場所：リガール春日野
参加者：当会会員21名

本部役員 河野正子

今回はKJ法を用いて意見を出してもらいました。美味しいお食事を味わいながら、初めましての方や、お久しぶりの再会に楽しく話も弾んだかと思えます。食後のデザートを頂きながら、今の県肢連が抱えている問題と今後の課題について書き出してもらいました。時間がなかったので項目ごとに並び替えるだけで終わりましたが、県肢連を無くして欲しくないという意見や県や国に直接に声を届けられる団体だという意見も圧倒的に多かったですが、根本的な解決策がなかなか出てこない結果となりました。今後も、考えていかないといけない課題だと思います。(以下、抜粋)



①あなたや障害のある人たちにとって奈良県肢連の必要性は何ですか

- 行政や県・国の制度が変わったり新しいことが始まる時に、会員に伝えてくれる。
- 法律や制度が変わったりする歴史がある中で、父母の会の声がとても大切であり、次の世代へ伝えたいし、父母の会があることで安心を感じる。
- 親の声を行政に届ける為には、個人よりの市・県の父母の会からが届きやすく、数の力が声の大きくなる。
- 災害などの非常事態になった時に、協力し合って心強いと期待します。

- バス旅行で色々な場所に行くことができる。
- 各都道府県の県肢連で頑張っている。
- コミュニティで交流して失望せず、周りと現実に行動的に生活を過ごすことができる。
- 親同士のつながりはとても大切。障害のある方の福祉がほとんどない時代から、今の時代に変化(受け入れサービスがある今)したのも親(当事者)の声があったからだと思う。だからなくしてはいけない。
- 私世代(70代)は暮らしやすくなったと思っていますが、若い世代の方々もこれからも市町村・県・国へ要望や意見を出す時に、奈良県肢連の団体は必要だと思う。

②今後、奈良県肢連を継続していくために、どのような工夫が必要ですか。

- 理事会等、オンラインを活用する。
- きょうだいの人が集まる機会を企画する。
- 年齢が若い会員を増やしていく。
- 事業毎に実行委員会を立ち上げ、会員の中から委員を出してもらう。
- 事務局を雇う。
- 事業のスリム化で役員の負担を減らす。
- 親が立ち上げた事業所も多い。若い親御さん達に、その経緯・必要性を訴えていく。学校との連帯を。
- 子供が重度になってきて、親も(高齢化で)なかなか活動に参加出来にくく、役員の負担も大きいので事業を減らしていき、若い人達に入ってもらふことを考えていきたい。
- 会員を増やすことが必要だと思いますが、その会員さんが増えないのは問題です。また、反対に親の年を考えて脱退したいと考えている人も多いと思います。役員さんの仕事ももう少し減ったらと思います。



③役員になる人が減っているのは、何故だと思いますか。解決するには、どうしたらいいでしょうか。

【原因】

- 子供が重度でも働くのが当たり前になってきて、低学年の間は、学校と放課後デイサービスで十分助かっているの、会員になろうという意識がないように思う。

- 若い親御さんは仕事をしている人が多く、なかなか会う機会がない。
 - 障害サービスを使う事が当たり前になって、個人の都合で動く人が増えたから。
 - 各地域の父母の会でクリスマス会や行事をする時に、積極的に地域の子供たちに声かけをしないので会員は増えないし、高齢化を理由としている。
 - 本部役員の仕事が多い。
 - 仕事を持っている人が多いので役を引き受けない。
 - 親の高齢化。若い会員さんが減っている。市町村の父母の会に新しい人が入って来ない。
 - 行事などで多くの負担がかかると思われている。一度役員になるとなかなかやめれない。
 - 新規会員の入会も少なく、会員も少なくなっている。その中で役員選出は難しい。
- 【解決方法案】**
- 卒業間際になると考えも変わるので、まずは父母の会を理解してもらう。
 - すべて役員がするのは負担が大き過ぎるので事務員を雇う。
 - LINE やリモートを活用して、出席しやすくなればと思います。ある程度を持ち回り出来た方が良ければ、それぞれの地区で相談する。
 - 役員を各地域から順に出してもらう。
 - 若い会員さんを増やす。
 - 事業を見直し、隔年にする。
 - 会員外の親御さんと会員さんと何か事業を一緒にやってみる。



さわやかレクリエーション助成事業
パソコン講習会

日時:2026年1月28日(火)10:30~12:00
場所:奈良県社会福祉総合センター 第1会議室
講師:掛水敏光氏
参加者:当会会員10名

天理市 澤田美千代

今までなんとなく目や耳にしていたことや、全く知らなかったことを知ることができ参加してよかったです。カタカナの用語が増え、しどろもどろだったところがすっきりしたように思います。習ったことを実際に使って生かしていきたいです。ありがとうございました。

大和郡山市 堀川晶子

とても勉強になりました!知っていたつもりでも、うまく使えていなかったり、使う場面がわからずそのままにしていたりしたこともちゃんと理解できたので、これからはしっかりその機能を使えそうです。特にフェイクアラートの対処の仕方は家族や友人にもしっかり伝えたいなと思いました。

奈良市 左野佐保

スパムやウイルスに関してはなんとなく知識だったことがクリアになりました。今回はまずは安全に使用できるようにならないと改めて考えるきっかけになりました。後半 便利な機能についても教わり楽しかったです。スマホも全般によくわからないまま普段使っているのもっと活用できる機能を身につけられればと思いました。



さわやかレクリエーション助成事業
 お話をきく
 圓照寺門跡様を囲んで

生駒市 世良桂子

圓照寺門跡の萩原道秀様のお話を聴かせていただいととても良かったです。ありがとうございました。

全介助の息子は、人に介助をしてもらうとよく「ありがとう」と言います。息子は介助をしてもらうばかりで、自分がしてあげて喜んでもらいたいと思っているだろうと気がつきましたと発言しました。

息子にしてもらって「ありがとう」とこちらが言う場面を作ってあげたらいいですよと門跡さまに言っていただき、心がけようと思いました。

日時:2026年2月6日(木)
場所:リガーレ春日野(奈良市)
参加者:15名

大和郡山市 持田聡美

圓照寺 門跡 萩原道秀さんのお話を聞いて八年前に住職になられる前は、介護福祉士として働かれていたとのことで、私たちの子どもの介護の悩みにも、アドバイスをいただけて日常生活を見つめ直す機会になりました。笑いもあり、とても和やかな時間でした。ありがとうございました。

奈良市 深野夕佳

圓照寺の萩原道秀門跡様をお迎えて、お話を聞く会がありました。参加者はそれぞれに我が子や家族のことで気になっていることや、我が子の自慢などをおいしいお茶やケーキをいただきながら話しました。

各人の話が終わるごとに、門跡様とのテンポよく心地よいやり取りが始まります。

参加者の家庭状況や子供の年齢はまちまちですが、どの話にも自分と共通していたり、共感したりする点があり、そのたびに笑ったり、すこし涙がうかんだりして、楽しい時間を過ごしました。

会の最初に門跡様の自己紹介がありました。介護福祉士や陶芸家としてご活躍され、現在は山村御流の家元でもあるそうです。生け花との向き合い方や障害者とその家族とのかかわり、支援者の重要性についてなども伺いました。そうした様々なご経験からでしょうか、わたしたちが話を

をするときも、またお話を伺っているときもしっかり受け止めていただけて、ほんと安心して、会の和やかな雰囲気を作ってくれているのだと感じました。

晴れやかな気分で帰宅しました。



お知らせ

令和6年度皆様からの募金は能登半島地震の義援金として石川県肢体不自由児者父母の会連合会に寄付いたしました。

金額50,000円



数

珠

つ

な

ぎ

西和地域 桑原恒子 (くわはらひさこ)
上牧町在住

コロナにより在宅勤務になった頃、両親ともに在宅医療を受けることになりました。私も両親と同じく福祉サービスを受けながらの生活が始まりました。

以前から両親と「自分たち(両親)が倒れたら」と話すことがありましたが「自分たちと生活していても一人で暮らしているつもりで生活しなさい、親のことは心配しなくていい」と言っていました。今、思えば自分で決めていきなさいということだった気がします。

父は訪問看護師さんに色々とわがまを言いながらもお世話になっていました。タバコもお酒も辞めるように言われても続けていました。そんな中、家族が見守る中父は亡くなりました。

その後、母とケンカもしながらも仲良く?過ごしてきました。コロナが落ち着いてからも、職場では出社される方も増えた中、在宅勤務を続けさせていただけたことは有り難かったです。母が、1Fで私が2Fで休んでいると母から電話で起こされ眠れなくなることもありました。調子のよいときは、私たちが子供だった頃の話や母の若いころの話をしてくれました。いつも「仲良く、健康で長生きしよう」とよく言っていました。

一昨年の暮れに母がトイレへも、立てなくなりリハビリ入院をしました。一時は、楽に立てそうなところまできましたが急性肺炎になり父のもとへ旅立ちました。

それから数か月が過ぎました。私は母について「あの時、あーしていれば」、「こんな風にしてあげれば」と色々と考えてしまいますが、弟が「そうでなくて、一生懸命に生きてくれて長生きおめでとう」と言うってくれました。それを聞いて、寂しい・辛いはありますが少し楽に思えました。障害のある私にも、介護の経験をさせてくれたんだなあとも思いました。

昨年の暮れに、職場から1ヶ月に何日かでも出社しないかと言って頂きました。4年近く在宅でしたので職場へ行くことに不安もあります。

両親から、弟家族やヘルパーさん、友人などにお世話になりながら新しい生活をはじめなさいと言われていている感じがしています。

次回は、秦十三さんにつなぎます。



社会福祉法人ならやま会

生活介護事業にじいろ
施設長 竹内雅人

「社会福祉法人ならやま会」は、障がいをもつ子どもの親たちの強い願いで設立された、全国でも極めて稀有な福祉法人です。入所者や親の思いが反映され、重度の障がい者も受け入れることができる施設、そして何より、隔離された施設ではなく、社会、地域との交流を通じて、生きがいを発見できる施設を創りたい…親たちの熱い思いと、たくさんの方々の厚いご支援がカタチとなって、平成4年にならやま会は設立されました。

皆様のニーズを反映する形で、授産施設(後の生活介護)や障害者支援施設・ヘルプステーション・グループホーム・就労系サービス・高齢者向けサービス・児童向けサービス等を始めとし徐々に事業所の数も増え、当事業所も平成27年に開所し、今年の6月には節目となる10周年を迎えます。

開設当初は4名の利用者から始まり、近隣にある3つの養護学校から卒業生が徐々にご利用になられたことも手伝いまして、『ゆっくりでもいいし、ちょっとでもいいから、1日・1週間・1ヶ月くらいの長いスパンでこれ頑張った!これ楽しかった!って感じてもらえたらいいな』という感じの雰囲気です。

～主な活動内容～

午前中は、運動することと働くことを中心に考えています。

仕事

隣接するグループホームでの委託清掃業務や周辺地域の清掃活動、空き缶つぶし 等

からだへの取り組み

畳コーナーや立位訓練、リフトを活用した除圧 等

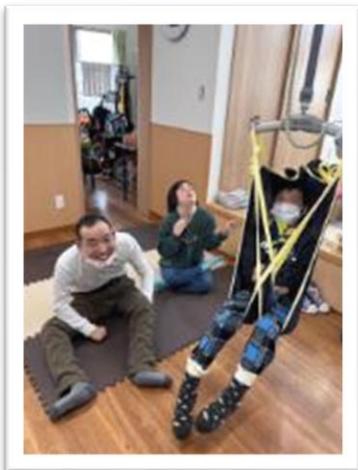
午後は、日替わりで様々なプログラムを準備しています。毎週金曜日の午後に皆でコーヒーを飲みながら決めています。

買物、季節に応じた活動、紙漉き作業、畑作業、ゲーム 等



事業所のこれからにつきまして、身体障がいのある方が多くご利用いただいている事業所という事もあり「機械浴」や「リフトの設置」を始めとした利用される方も、一緒に活動するスタッフも、皆が将来にわたって活動しやすくできるような仕掛けを進めるとともに、これまで以上に「医療的なケアへの対応」をより手厚くしていきたいと考えています。

法人全体につきましては、社会福祉をとりまく環境が激動の真只中にある現在において、社会福祉事業そのものも大きな革新を求められています。私たちはそうした中で、設立時の理想を忘れず、時代に応じたマネジメントの進化と基盤強化をはかりながら、利用者やご家族のさまざまなご要望に応えられる柔軟な体制づくりに邁進してまいります。



訓練会より

仔鹿会 会長 深野夕佳

2024年度も、多くの方々のご支援と温かいご協力により、充実した活動ができました。心より感謝申し上げます。今年度も①月例会②ミニミニキャンプ③心理リハビ



リテーション療育キャンプを実施しました。①では一か月の間に硬くなったからだをゆるめてから姿勢を整えたり、動作の改善をしたりしました。毎月顔を合わせる様々な年代のトレーナーやトレーニーと同じ場で一緒に取り組み、終了後にその日の動作の取り組みを各人が発表することで翌月までの活力になると感じました。②では6月に日帰り2日間、動作の取り組みと研修の時間があり、動作についての理解を深めたり、保護者間で交流をしたりできる機会として役立ちました。また、2



日間ではありますが、集中して繰り返し取り組むことで月例会では解決しにくい問題にも取り組み、から

だが軽くなって動きがよくなったことを実感しました。③では、この5年間のコロナ禍による中止や、外部講師不在のキャンプを経て、今回、明治学院大学名誉教授 清水良三先生が講師を務めてくださいました。清水先生の動作の実践や講義では、改めて動作法によるからだを通してのやりとりや動作の「間」の大切さを感じました。キャンプ3日目の清水先生との懇談の場では、保護者は日ごろ表出しにくい子育てのやりにくさやストレス、不安等を話す機会にもなりました。動作の考え方は教育や福祉の現場はもちろんですが、日ごろの子育てやコミュニケーションに通じることを改めて感じ、もっと知りたい、学習したいという気持ちになりました。4日間のキャンプを通して子どもたちだけでなく、保護者もそれぞれの



課題に向かって、成長や達成感が味わえる機会となりました。

2025年度も、皆様のご協力をいただきながら、活動がさらに充実し、参加者一人一人の満足度が上がること、そしてその活動を多くの方に知っていただくことを心から願っています。今後とも、変わらぬご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



陽だまり笑顔の会 会長 小野弘美

昨年末に陽だまり笑顔の会の代表として、私たちの活動を見守り支援し続けてくださっていた松本倫子さんが亡くなりました。優しく聡明で、決断力や忍耐力もあり、美しい方でした。寂しいですが、松本さんの意思を引き継ぎ指導して下さる先生、親子、スタッフの皆様と共に頑張っていこうと思います。松本倫子さまのご冥福を心よりお祈りいたします。



さて令和6年度ですが、毎月県内5ヶ所で学習会を開催しました。そして、令和6年12月1日(桜井市総合福祉センター)NPO法人ひろがりの丹羽陽一先生、



野々目昌子先生をお迎えして親子6組、スタッフ7名、研修生10名参加で、親子集中学習会を開催いたしました。午前中は静的弛緩の基本を学び、足湯等で体を温め、互いに優しく触れ合う感覚を学びました。午後からは、更にゆっくりゆったり、優しく緊張をほぐし触れ合いを深めました。口周りが緩み、リラックスしている姿を見て、あらためて触れる事の素晴らしさを感じました。



令和7年度は、指導者の先生方が生駒市福祉センターと、桜井市総合福祉センターの2会場で親子集中学習会を開催するような計画をすすめて下さっているようです。いつもながら感謝するばかりです。本当にありがとうございます。

学習会で学んだことを少しでも日々の生活や活動に取り入れるようにするのが、スタッフの先生方や講師の先生方のお気持ちにお応えすることになると思います。

新年度を迎えて、心も新たにしています。



令和6年度賛助会員のご紹介

当会の趣旨や活動に賛同いただきました皆様をご紹介します。
ご支援有難うございます。

- NPO 法人サポートセンターはあと理事長 菊山礼子様
- 日本筋ジストロフィー協会奈良支部支部長 藤田桂子様
- 社会福祉法人あけび理事長 相島博史様
- 社会福祉法人大倭安宿苑理事長 矢追美壽紀様
- 坂下伸一様 田口玲子様 筒井英子様 阿部宜子様
- 石田京子様 藤本さゆり様

他 匿名希望 | 団体様 | 個人様(順不同)

記入漏れ、お名前の間違いなどございましたら事務局まで



編集後記

大阪・関西万博が開催されました。「人類の進歩と調和」を掲げた1970年の万博を思い出します。あの頃は、月旅行も夢じゃない!とっていました(笑)。あれから55年なんて早いものですね。
ご寄稿いただきました皆様ありがとうございました。
ご感想などございましたらお寄せください。とても励みになります。次回もお楽しみに(o^-^o)



第18回

南都諸大寺チャリティー
墨書展のお知らせ

日時: 9月 13日(土)~14日(日)

10時~16時(14日は15時まで)

会場: 東大寺総合文化センター

小ホール・会議室



令和7年度今後の活動予定

- *親子県外交流事業 日帰りバス旅行 6月28日(土) 大阪・関西万博
- *第59回近畿肢体不自由児者福祉大会京都大会
7月12日(土) ホテルグランヴィア京都
- *第18回チャリティー墨書展 9月13~14日 東大寺総合文化センター
- *第58回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
9月27~28日 北海道札幌市
- *文化・芸術活動事業 露の新治さん落語会
10月4日(土)
奈良県社会福祉総合センター大ホール(拡大事業につきどなたでも参加できます)
- *社会見学事業 グループホームぽのハウス見学(滋賀県大津市)
10月28日(火)
- *近畿ブロック地域指導者育成セミナー(滋賀県) 11月開催予定
- *パソコン講習会 1月27日(火) センター 第1会議室